

SADA

SAKAI DESIGN ASSOCIATION

堺デザイン協会

NO. 19
1998年9月



一般市民が狭い住宅に、ひしめき合っているのに、あまりにも膨大な空間が手付かずのまま存在していることを不思議にさえ思った。 (岡本安吉)

堺と西陣織り

垣村三平

高級織物の産地として知られる西陣は、京都の北西部に位置し、西陣という地名があるわけではない。

この名称は、応仁の乱(1467年)にまでさかのぼる。西軍の総師 山名宗全は、東軍の総師 細川勝元に対峙して、堀川より西に陣をとったところから、西陣と呼ぶようになったといわれている。

西陣の町は、ちょっと変わった町で、表通りにはビルや家屋が建ち並ぶが、裏通りに入ると、町家造りと呼ばれる家屋から、かすかに機(はた)の音が聞こえてくる。

そして生糸がひとたびこの町に持ちこまれると、機屋を中心に、図案、紋意匠、整経、糸染めといった、それぞれの自立した専門家によって、きらびやかな絹織物が織り上げられるのである。

西陣は、近世以降、高級織物を中心として繁栄してきたが、機業地としての発祥はもっと古い。5世紀ごろには、秦氏をはじめとする帰化人たちが、太秦あたりに住みつき、養蚕を始め絹織物を織ったという。

平安時代 になると、官機(国営)としての織物工場が現われた。職工たちは織手町あたりに移住し、公卿や貴族の羅、綾、錦などの衣服織物を織り上げ、衣生活を支えていた。

平安末期には長く続いていた官機が廃止になり、民間の機業が生まれる。すなわち織手町に住んでいた宮庭の警護役の大舎人が、自ら織機を備えて織り元になり、自由に注文を受けて織物を生産した。これが官機に対する私機の起りである。

このように、しだいに民間の機業が隆盛し、やがて西陣界限に受けつがれて、鎌倉・室町時代を迎える。応仁の乱よりさらに300年も前に、すでにして織物産地としての基盤ができていたのである。

室町時代 は、日本の染織にとって、皮肉なことに禍福両様の結果をしめした。すなわち応仁の乱によって、京都は荒廃の極にいたったが、一方、対明貿易の利を生かした堺の機織りは目ざましかった。11年間も続いた応仁の大乱は、京都の町の大半を焦土化し、機織りしか生業の道のない織工たちは、戦火を逃れて堺に避難した。

このころの堺の町は、三方が深い濠をもって囲まれ、豪商を中心とした会合衆が、南北の区画ごとに町をつくり、独自の法をもって運営を行い、町の外で戦いがあったとしても、いったん中に入ると平和が保たれていた。

そこへ京都をあとにした織工たちは、貿易港で栄えた堺の町で、当然ながら中国の精巧な織物技術にふれ、驚いたに違いない。彼らは、明工人たちに接触し、自らが舶来品に劣らぬものを製造したいという願いから、さらに工夫をこらし、機織りの技術を学んだと考えられる。

これが高機による紋織りの発明につながり、西陣織を不動のものにした。それまでの機織りは、居坐機と呼ばれ、平織りの織物しか出来なかったのが、経糸を操作しながら地緯と絵緯を自由に組みかえられ、この機による技術によって、初めて紋織物が誕生したのである。

南蛮貿易時代 織田信長・豊臣秀吉が活躍したいわゆる桃山時代は、大航海時代と呼ばれ、単に中国だけではなく、西欧の文化を積極的に受容した時代といえる。

この時期、堺と西陣は、織物業における二大中心地であり、堺が南蛮貿易の拠点として、輸入糸や新技術において、京都西陣を圧していた。しかも堺商人は、ポルトガルやイスパニア船のもたらす、ヨーロッパのさまざまな文物に着目し、取引して最も経済的に成長を遂げていた。

中でもポルトガル船は、中国と日本との仲介役に従事し、その交易の実態は、生糸や織物を中心に商いが行なわれた。それは、国産の生糸は唐糸(中国産の生糸)に比べ品質が劣り、特殊な精練がほどこされて黄変することなく、高級織物を得意とする堺・西陣の織物業にとって、この唐糸は、機業の発達と密接な関係をもつものであった。

一方、この頃の堺や西陣では、茶の湯が普及していた。そこで舶載品を鑑賞し、尊重する気風が起こる。いままでも日本人が知ることもなかった、ピロードや羅紗、金襴、緞子などの珍奇な織物が、あたかも怒濤のような勢いで、中国や西欧から堺港に入ってきた。とくに、茶の湯においては、舶載の茶器や茶壺など、すぐれたものには「名物」という名を冠し、袱紗や仕覆(茶入れ袋)に用いる織物にも「名物裂」と呼ぶようになった。この名物裂は、江戸時代中期まで増え続け400点にも達し

たが、この中には金襴・緞子・綾・錦・間道・印金・更紗などがあって、茶道の世界でとくに珍重された。

また、茶の湯を拓いた堺の茶人・武野紹鷗や北向道陳から学んだ千利休は、茶会に用いる織物に“利休好み”の名称をつけた世に有名な利休緞子もそのひとつである。

織豊時代 時の権力者 織田信長は、対外貿易を奨励し、なみなみならぬ関心をはらっていた。信長が畿内の諸都市を制圧しようとしたことは、それと関係深いものがある。

ことに堺の国際貿易都市的性格からみて、何といっても掌握しなかったのは明らかに意味を持つ。そのため堺に対して、矢銭といわれる軍用金を2万貫も要求し、脅しをかけた。しかし、当時の堺町人は、対貿易で巨富を蓄積し、自ら武力を持つ自治都市を組織していただけに、この過大な要求を拒否した。結果的には、信長の8万の大軍を敵にまわしては、堺のような傭兵を持つ都市はいかんともしがたく、謝罪することになったが――。

それに加え、ポルトガル人が種子島から持ってきた鉄砲（火縄銃）の生産は堺が日本一であり、この鉄砲が、革命的武器であることを、彼はいち早く見抜いていた。そして鉄砲の入手と鉄砲の生産地を自らの勢力下に置くため、徹底的な弾圧を加えたのである。このように信長は、強力な自治都市と巨万の富みを得た堺に対して、圧力をかけたのは当然の事といえよう。

信長のあと、天下人を目指す秀吉は、京都を唯一の本拠地として諸政策を行い、都市経済を肥大させようとした。京都においては、主産業である西陣の織物について極力な保護政策をとり、厚板（能衣裳）や襦子、細綾などの品を織らせた。また、絹織物の最大の比重を占める唐糸を、公儀御甲の糸であることを示して、ポルトガル船から直接買付け、西陣に使用させて目ざましい発展をとげた。

秀吉は京都の他に、政治・軍事・経済・交通の中心とするにふさわしい大坂の地を選んで、天正11年（1583年）諸大名や家臣、諸職人を動員して、大坂城の築造に着手した。同時に広大な市街地構想のもとに、大坂から天王寺・住吉に近く、3里余り離れた堺まで続けるといふ城下町の建設に力を注いだ。そして町の経済活動を



紙園祭・占出山 前掛・巖島園 緞

活発に展開させるため、金力のある堺の商人を、強制的に大坂に移住せしめた。

さらに、3年後（1586年）には、自由都市堺の象徴であった南北の堀が秀吉の命令により埋められる。下って大坂夏の陣（1615年）では豊臣・徳川の天下統一合戦の補給地として利用され、豊臣のかけた火によって、町のほとんどが全焼してしまった。

これらは、秀吉の統治下におくための制圧であり、これがため堺の織物業をはじめ諸々の工業は、台頭できない悲惨な状態に零落したのである。

江戸時代前期に入ると、堺の絹織物業は、中国産の唐糸を原料として、紗・綾・金襴・緞子などを織り繁盛したが、その一方で木綿の織物が盛んになった。堺においても、新しい産業として木綿が織られるようになり、絹織物は徐々に影をひそめていった。

ところが、片や西陣織物業は、室町幕府から保護奨励を受け、桃山時代には秀吉の庇護を受けて、目ざましい発展をとげた。そして他に例を見ない大規模な機業地帯を形成し、堺とくらべ圧倒的な優位が認められるようになる。このように為政者によってますます西陣の勢いは極頂に達し、堺の機業は元禄年間を境に衰退し、ここにいたって堺と西陣の競合は終わった。

それは、鎖国という江戸幕府の貿易統制方針とともに、堺に対する都市政策の相違が大きな要因をなしていたといえる。折角、大坂夏の陣で焼野原になった堺が、幕府の生糸割符貿易により、昔の繁栄を取り戻したかに見えたが、鎖国により貿易の窓口が閉ざされてしまったのは残念である。だが、なによりも大きな違いは、機業家自体の技術やそれを取り巻く経営上の努力などの相違であったと考えられる。

ぼくと ぼくと 獺と博徒

岡村 筭



先日大阪国際交流センターで行われた「現代アジア芸術文化交流について」という催しに参加した。尊敬する前帝塚山大学々長の森永道夫先生からのおさそいがあったからだ。

パネリストの一人に在日三世のフリーライター姜信子さんが出席され、話の中で、世の中には獺と博徒が居るようでお金勘定とその仕掛けのために翻弄される人々はさておいて、我々文化の創造者をもっと自由に、もっと積極的に国の垣根やイデオロギーを乗り越えて新しい文化を生み出すネットワーク作りをしなければならないのではないかという話があった。日頃私が話している言葉に言い換えれば、ものづくりをする人とならない人がある、ものづくりをしないの方が渡世術には丈でいて、ものづくりをする人はどうも算術が苦手のようなのだ。医は仁術か算術かと言われる例も同じようなものか。

このところ日本の経済も冷えきって、ご多聞に漏れず我々の仕事も非常に狭苦しい話になっている。かなりの数のデザイン関係の人々が廃業したり極端に縮小したりで喜ばしい話は一つ耳に入っていない。一方西暦年号が変わろうとしている今、人の生き方も急速に変化せざるを得ない状況に追い込まれつつあるのは誰しも感じているところだ。しかも日本の国とかお隣の国ではなく、地球人として我々人類の未来のために、今何をすべきなのか問われている。頭をガラリと切り換えて、真に人間の目指すべきところは何処なのか叡智を絞って話合わねばならない。今こそ夢を語ろうではないか。夢は創造の玉子でありそれが実現したときに東になり姿を現す。夢の段階では算術では計れないが創造する能力、右脳の活発な人種にのみ期待される限られたことなのだと思う。

芸術文化総合研究センターの活動には実は初めて参加させてもらったが、今回が15周年記念という催しで

あったため私にお声を掛けて下さったのだと思うが、振り返ってその活動の成果を見ると実に純粋に地味にやって来られたかに、頭が下がる思いである。シンポジウムの終りに提言が採択された。

現代アジア芸術文化交流についての提言

—— 韓日の芸術文化交流の促進を軸として ——
芸術文化総合研究センター設立15周年記念国際シンポジウム
1998-6-21(日)大阪国際交流センター

①国際ナショナルからインターピープルへ

●国と国との交流から、人と人との交流へ。

民主化は、20世紀後半にますます顕著となってきた、世界の大きな潮流である。それは、国の在り方そのものも、国家のための国民から、国民のための国家へ、という変化であり、民衆の希望に沿う変化である。国連における会議を見ても、国の代表が集まる文字通りの国際会議だけではなく、非政府団体=NGOの会議が重要な位置を占め、確固とした地位を築いていることにも明らかである。芸術や文化の交流は、国や行政系組織・機関は、あくまでも黒子であり、主役は芸術家や文化人である。組織と組織の交流ではなく、人と人の人間どうしの交流が、芸術文化交流の基本である。したがって、芸術文化交流は、国際ナショナルではなく、インターピープルでなければならない。私たちは、国境を超えた、インターピープルな芸術文化交流を提案したい。

②芸術文化の民主化とは、芸術文化の独立・自立である。

●政治の民主化によって、表現の自由がもたらされる。芸術や文化の民主化とは何であろうか。冷戦崩壊後の世界を見渡せば、とくにヨーロッパでは民族紛争が絶えず、今日もコソボの危機が伝えられる。そうした構造では必ず、民族文化がナショナルアイデンティティの形成のために利用される。政治にせよ、文化にせよ、民主化とは、民が主体性を持って自立し、独立していることである。政治の方向を国民がチェックできるのが、民主主義国家の基礎である。文化は、国に属しているのではなく、本来、民の手の中にあるものである。ならば、民族文化は、国家のために利用されるのではなく、民族文化は民族文化として、それから独立しなければならない。芸術文化の民主化とは、芸術や文化の独立・自立のことである。独立し、自立した地点から、人々の精神の声を聞き、精神に語りかけることこそ、芸術や文化の本来あるべき姿である。この立脚点の保持こそ、芸術文化の民主化である。

◆①と②の基本的条件をふまえた上で③の具体案を提案。

③「韓国における日本年、日本における韓国年」から、アジア各国に。

●日本におけるフランス年、フランスにおける日本年のように、隔年で芸術文化祭の開催を提案したい。ワールドカップ開催中のフランスでは、参加各国のさまざまな文化を紹介している。日本の文化としては、劇作家・平田オリザの作品が上演されている。2002年、韓国と日本は、ワールドカップを共同主催する。まずは、2002年を目標として、それまでに、互いの文化を紹介しあいたい。こうした韓日の積み重ねを基礎に、この波紋をアジア各国に拡大し、アジア各国を巡回する芸術文化祭の開催へと育てるべきである。

主催：芸術文化総合研究センター／韓日傳統文化交流協会
後援：帝塚山大学演劇学研究室／コリアボランティア協会／
大阪NPOセンター

上品な(ディーセント)

川崎 浩

1994年秋、大江健三郎さんがノーベル文学賞を受けられた。12月7日のストックホルムでのノーベル賞受賞記念講演が、「あいまいな(アムビギュアス)日本の私」と題して英語で話され同日付の朝刊に訳文が載ったその中に「のぞましい日本人の姿」と云う見出しがあり、……やはり英語による妥当な言葉をもとめるなら、「人間味あふれる(ヒューメイン)」「まともな(セイン)」「きちんとした(カムリー)」とかの単語と並置されるものとしての、「上品な(ディーセント)」日本人と云うことであるように思われます。……主な言葉には原語の送り仮名が()であった。手元の辞書で見ると(decent) ①礼儀正しい、見苦しくない(elegant)、たしなみある(tasteful)、上品な。②体裁の悪くない、人並みの。③かなりの(収入など)、相当な。④親切な、寛大な。⑤(俗)やかましくない(教師)。とあった。思ったより広い意味に使われ、やかましくない教師などわかるような気がする。広辞苑では①品柄のよいこと、品質のよいこと、またそのもの。②ひんのよいこと、気品のあること。とあり、まことに素っ気ない。英和辞典(ウェブスター)では具体的である。①(ことばづかい、衣服、立ち居ふるまいなど)が一般に通用する上品さの規準に達している。《上品な》②慎みのある服装をした。③卑猥でない。④かなりよい。とあり、服装、言葉づかい、動作など採点して、ディーセントであるとかないとか言うようにすら思える。即ち個人的な主観で決めないでまことに客観的である。品のあるなしなどちょっと見でよいと思うのであるが英語圏ではそうではないらしい。

12月9日の紙面に堀田善衛氏との対談がでている。……いま一つは、「ディーセント(decent)」という単語です。30年くらい、この言葉のある文章をノートに書き出してきたのですが、するとよく使う作家がいることがわかります。英国の作家ジョージ・オーウェルはその一人です……訳者は文脈によって様々な日本語をあてています。「上品な」「寛容な」あるいは「人間らしい」とか……。また彼の文章のひとつをあげ「未来を耐えやすいものにする唯一の方法は、おそらく過去の時代の人

間を人間的にしていた、思いやり(ディーセンシィ)と正義とを身に付けて未来に向かっていくことなのだ……。」との引用があった。

国際化時代と言われるが、それは我々が無国籍化するものではない。もっと日本人らしくなることが世界に通用する日本人である。即ち国際化である。望ましい日本人像として「ディーセント」なる語を私は心に刻みこんだ。

「龍村美術織物見学会」の報告

事業委員会担当/理事 上野あきら

平成10年7月24日見学会が開催されました。今回は、名誉会員の垣村さんの御協力で、龍村美術織物にて開催された龍村美術染織技術保存協会十周年記念展「懸装品の美」展示と工場内部の見学をさせていただきました。

龍村美術織物は「だんつう」が有名ですが、古都京都の世界的に有名な



山鉦巡行の山鉦に飾る懸装品(ベルシャ絨毯が有名)を復元修理を手掛けていて、今回が十周年にあたり、その記念として特別にそれらの織物等を展示されたとの事です。展示されたものは、織物として一級品であることはもちろんのこと、その文化財のもつ意義、歴史を考えさせられるような、素晴らしいものばかりで、一つ一つがもつ輝きは、織物という枠を超越しているような感じでした。次に工場内の染色場に案内され、糸を染める原材料を拝見しました。昔ながらの染色材料、自然の木や花がもつ色の深さは、現在の化学原料では、絶対だせないと言っていました、全くその意に同感しました。その後、会社内で飲み物をいただき、見学会、京都で食事をし、散会しました。



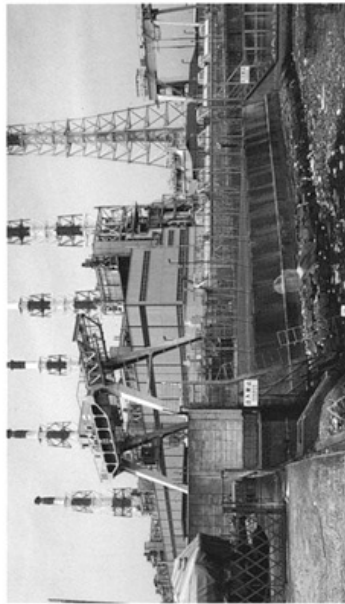
わが町——堺をデザインする。

その 4

「堺にはもう海がないのか？」

●河川ワースト・ワンが大和川。 ●このままでは海のワースト・ワンになりかねない。

堺市の計画中の都市計画案があると思いますが、それとは別によく馴染のアサイナーの立場から提案してみました。
株式会社 アトリエ オカモト
岡本安吉



〈堺の文化は海から来た〉
かつて堺の大浜から石津、浜寺にかけて関西でも珍しいほどの遠浅の砂浜で、海岸沿いには低が堤が海には、アジ、カレイ、イワシ、ガツオ、などお祭り大浜の遠浅では足でハマグリを取ったものだ。海岸の捨て石にはカニや舟虫がおび、青のワヤ天草などで織の匂いが立ち込めていた。

私達の先輩が成された街づくりの中で、もっと慎重に計画的にすべきだったと思われる所が3つあると思う。

- 土居川を場当りの計画で、あげくの果てに、その東側を埋め立てたこと。
- 堺市内ど真ん中に高速道路を引、街を分断したこと。
- 無秩序に海を埋め立て、化学工場、重工業、石油基地など誘致し、海が汚れ、大気が汚染されたこと。このような方法でしかなかったのだろうか。もった計画的に自然環境に配慮し、美しい景観を残しながらできなかったのだろうか。

〈堺の海岸はわずか3キロ〉

堺市の海岸は北側の築港人権町(大和川尻)から南側の築港浜寺西町まで全長延49.86kmもある。そのうち一般市民が海と接することのできる所は

- 古川河口と堺港の一部……………1,800m
 - 旧堺港……………940m
 - 出島漁港……………76m
 - 築港南町……………70m
 - 石津漁港・浜寺大橋……………76m
- 合わせて3,646mと、50km中わずか7%にすぎない。それも貨物が停揚げされている岸壁やコン

クリートの防波堤も含むのである。残りの93%の海岸には広大な敷地をもつ企業が間もなく鉄骨で覆い入入口には「一般立入禁止」である。(地図本線部)工場の裏側は海に接しているため、どんな汚染物質が海に放出されているのかは全く知らない。何のために我々市民の海を見る権利を禁止されているのか予盾を感じる。海はみんなのもの。泉州に生まれたい者は美しい海の有ることを誇りに思っていたのだ。

〈遊歩道を作り市民と海との接点を〉

せめて、これらの臨海工業地の外側に一般市民が安心して遊べる遊歩道のようなものを作り、海と接し、海の汚れに直に接し、企業から放出される汚水、大気から放出される揮発や排出ガスを注意深く監視できるようにしてほしいと思う。道は市民、若人なもの。散歩、ジョギング、サイクリング、魚つり、など……。海に向かう夕日が、ぜひ風景をもう一度見たいと思う。

〈限られた人達の海岸ではない〉

それに最近では限られた5kmたらの海岸に、ひしめきあうようにヨット、クルーザー等のレジャー船が無秩序に停泊し、あたりに発泡スチロール袋で埋め尽くされ、狭い海岸をより狭くしている。旧堺港、出島漁港、石津漁港や石津川沿いに……。誰がこんな所を停泊場所として許可するのだろうか。まるで野放し状態である。西宮のヨットハーバーのように一ヶ所に集めることはできないものだろうか。

努力と運と



滝川重次

私は頭は悪いが運が良かった。貧乏な鍛冶屋の長男に生まれ、早く父母を楽にさせて実業が身に付く工業学校を選びました。口答試問の時、素直な本心から親に楽をさせてやりたいと答えたことを覚えて居ります。

合格したら学費が心配だった両親を思えば心は重かったが……。家業は大変な重労働であり、将来性もなかったのも、父も私もそれを引き継ぐ積もりはなかったが、終戦で無事復員出来て帰って見れば、家は丸焼けで工場もなく、父は焼跡の整理をしていた。スキーがしたくて就職した大セル新井工場であったが、どうしたら良いか分からない途方に暮れた家族を堺に残して、私一人が新潟へ行く事も出来ず、会社には辞表を出し、将来を家族と共に考えることにした。毎日焼跡を開墾して大根やナスを植えて食糧の足しにしていた。そんなある日、昔のお得意さんに会い「裁縫の鏡をつくれば一丁拾圓で買ってやる」と言うのです。そんなことから継ぐまいと思っていた鍛冶屋をせねばならぬ破目になり、食べるために、家族五人が生きるために毎日重労働が始まりました。今から思えばよくあの様な重労働が出来たものだと思いますが、生きるために背に腹は変えられない。夢のない日が続きますが、そんな心のスキを突く様に、見事に同級生にだまされるが、それが幸運の始まりで、拾坪の工場と二十三坪八合五勺の土地が手に入る。軍隊に入営した時に新兵が出兵するとの命令が変り古参兵が行ったことで、私が和歌山の沖でアメリカの潜水艦に撃沈されずに済んだために無事復員出来た幸運が、又ぞろ禍い転じて福と為す様にだまされた事によって芽が出る。丁度樹が節から芽が出るように、どんどん枝葉が伸びました。まさかこんな事になるとは夢にも思いませんでした。「勝ち続けると馬鹿になる」という言葉がありますが、それは本当です。1910年代のアメリカのフォードも20年間自動車業界でトップの座を占めて来たが、GMは「レ

インボー作戦」なるものを打ち立て、フォードの欠点を改良してカラフルな車を出して来た。それまでフォードは黒一色の車を消費者に押し付けて来た。赤や青や好きな色が選べる、GMにたちまちお客さんは移り出し、なかなかフォードの対応は遅く遂には追い越されてしまった。形勢は逆転するに至った。アルスもそれによく似たことをやっている。勝ち続けること30年、当時の社長は私でしたが、大馬鹿でした。其の後に息子が引き受けてくれましたが、負け続けたら賢しくなる事を期待していますが、其の逆も真かどうか分かりませんが、今迄私がやらなかった勉強会を色々やって居ります。其のために非難も耳にしますが、本当によく頑張っていると思います。勝ち続けて傲慢になった会社を謙虚な会社に換えるには社長の陣頭指揮も必要だが私も及ばず乍ら、社員の心の開発と、商品の開発に、私の命をかけて参る所存でありますので、今後共よろしく御付合い賜らんことをお願いして、終わります。

この度、平成10年度総会で、講演をしていただいた滝川重次さんのお話しが内容に富み大変面白く、また考え直すヒントをいただきましたので、原稿をお願いしたら、早速投稿いただきました。本当にありがとうございました。編集者のみの不勉強かもしれませんが、改めて滝川重次氏をご紹介させていただきます。

＜滝川重次氏・アルスコポーレーション(株)代表取締役＞

◆本社・堺市九間町西 ◆従業員数・182名

明治9年創業。堺刃物の伝統を受け継ぎ、独自の技術開発を続け「他社のやらない製品を、今まで誰もやっていない技術で」が同社のモットー。

堺市は日本でも有数の「刃物職人の街」として400年の歴史を刻んできました。1543年、ポルトガルより火縄銃とタバコが伝来。堺の技術力はこの頃から生かされ、戦国時代の重要な鉄砲の産地として重要な役割を担っていました。また、天正年間(1573年～)にはタバコの葉を刻む「たばこ包丁」が作られるようになり、明治政府が誕生するまでは徳川幕府が「堺印」を押して専売するというものでした。伝統の技術の長い歴史の中で、アルスコポーレーションは明治9年に創業の区切りを起し、先々代の「たばこ包丁」を作っていた歴史を基礎に発展し、大変な辛苦を乗り越え、こんにちの個性溢れる企業に発展されました。

滝川氏のお話しに引き込まれるのは、創作の現場が何処にあって、どうしてそれが生まれるかのお話であること。そして日ごろのどんな努力の積み重ねが、ハッと閃く創作の「芽」を生むかのお話である点である。(広報委員/館野)

“虚と実の世界”

後藤隆平伊

私の作品は、精神的な内容を表現する為に抽象の形態をとる事が多い様です。人間と自然、物質と精神、必然と偶然、目に見える物と見えない物など二つの物のかかわりを追求する事をテーマとして作品の制作をしています。それ



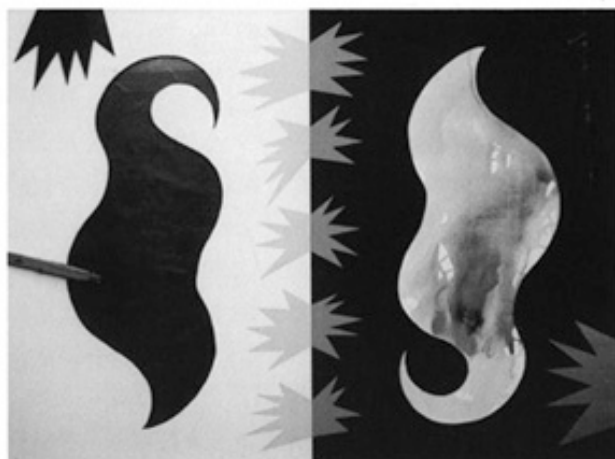
は、言いかえれば、虚の世界と実の世界のかかわりから作品が生まれる、ということです。虚実と言えば、実際に有るものと無いものと言う様に、単純に考えがちですが、よく考えると、どちらが虚か実か分からなくなる事があります。例えば、人は鏡に写った姿を見て、実際の形の通り明確に認識していますが、写真を写して(鏡にピントを合わせて)見ると、鏡の中に写った像は、ぼやけて虚像である事がよくわかります。又最近、展覧会の展示のため、小生のよく使用するバイオレットの色を正確に見られる様にと、照明の色々の色合いのテストをしてもらいました。そして最も太陽光線で見たのに近い色温度の球を選びました。それは、正しい色と言う事は、自然光、つまり太陽光線で見たと、認識しての事ですが、実はその太陽光線で見ても画面の置く位置、方向、時間、天候など各種の条件で全部微妙に異なります。どれが一番正しい本当の色か分からなくなります。それでは本当の色は、と言うと結局自分が頭の中で認識しているその色、と言う事になります。つまり虚が実と言う事です。

最近の世の中では日常の事でも、よく実と思って信じていた事が、虚である事がよくあります。人間の世界の中の虚と実は相対的なもので、本当は、どちらが実か虚か、言えない様な気がします。

●作品説明

A. 「二つの火」

この作品は、ベニヤ板を、炎をイメージする形にくり抜き、反転して片方に貼り付けています。連続する形は、人間の手をイメージした形であり、火の形を借



りて、人間の中の二つの世界を表現したいと思いました。画面右下の手の形は、素材がステンレスで、右側の明るい世界を象徴し、左側の炎の形の中は、素材に鉛を貼って、暗い沈んだ世界を表しています。



B. 「SŪJI」

現代の社会は、数字が無ければ機能しません。人間の生活に数字はかかせないばかりか、現代では人間が数字に支配されている様な気がする事が有ります。それがこの作品では、その威張った数字の数を表す記号としての本来の意味を取り去り、ただの形態としての面白さだけで並べて画面を構成しようとしてしました。しかし並べて見ると、数字は、それぞれに個性のある形態をしていてあらためて数字の形のすばらしさを思い知らされ、結局数字にふり回される結果となりました。

堺デザイン協会第15回通常総会が開かれました

事務局

平成10年6月13日第15回堺デザイン協会通常総会が午後4時に犬鳴温泉紀泉閣にて開催された。会は館野理事の司会で始まり、事務局より出席者が14名、委任状が15名、計29名は会員数37名の1/2以上であり本会が有効なものであることを述べた。そして議事録署名人に岡本安吉氏が指名された。規約により議長に岡村理事長がなり、議長挨拶のあと、会は議事に入る。

●第1号議案の平成9年度事業報告を上野理事より報告が行なわれた。次に平成9年度収支予算及び収支決算報告を高木副理事長から報告があった。収支予算中、入会金の数が2は間違いであり、4に訂正との報告がなされた。決算報告後、金子監事より会計監査報告を行い、適正との報告がなされた。ここで、川崎氏より質問があり、収支予算と収支決算の項目が一致しないとの指摘があり、これからは、是正するとの返答がなされた。また、事業費の金額の少なさを指摘され、上野理事が協会活動の内容を報告し、これからの活動に、善処するとの旨を、返答する。

●第2号議案の平成10年度事業計画を上野理事より報告が行なわれた。次に平成10年度収支予算案を高木副理事長より会に示された。質疑応答により、川崎氏より質問があり、事業計画中、事業方針がここ10年以上文言が変わっていない旨を述べ、現在の社会情勢を考えて方針を立てたらどうかとあり、上野理事がそれについて考慮すると答弁し、岡村理事長もそれに補足した。また、会員の増減について、会報などに退会、入会の報告をして一般会員に知らしめたらどうかとの問いに、会員名簿、会報に会員の一覧、動向を知らしめるとの解答を岡村理事長が発言する。また、金子監事は会費未納入の会員に退会の通達について発言があった。



●議長は、平成10年度事業計画案並びに平成10年度収支予算案の承認を図ったところ、拍手多数により可決了承された。議事終了の挨拶を高木副理事長が述べ、総会は午後4時45分に終了した。

●第2部、アルスコポーレーション(株)名誉会長滝川重次氏より講話があり、5時20分に終了する。

●第3部、懇親会。冒頭理事長の挨拶があり、来賓、賛助会員を紹介し、会員の自己紹介があった。来賓の(財)南大阪地場産業振興センター専務理事岩田茂様の乾杯の音頭により、会はなごやかに勤められ午後7時30分、金子監事の挨拶によりおひらきし、散会する。



平成10年度堺デザイン協会通常総会次第

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 開会宣言・挨拶 | 司会者・理事/館野 |
| ●出席者確認 出席者14名
委任状15名 | 29/37
2分の1以上
(第21条) |
| ●総会定員数の確認 総会成立宣言 | 司会者/館野
(第22条) |
| ●議事録署名人 | (第20条) |
| ●議長選出 岡村 筈 理事長 | 理事長/岡村 |
| ●議 事 冒頭挨拶 | 理事長/上野 |
| 1. ●平成9年度事業報告 | 副理事長/高木 |
| ●平成9年度決算報告 | 理事/上野 |
| 2. ●平成10年度事業計画案 | 副理事長/高木 |
| ●平成10年度予算案 | 副理事長/高木 |
| ●質疑応答 | |
| ●議事終了・挨拶 | 副理事長/高木 |

講 話

講 師 アルスコポーレーション(株)名誉会長 滝川重次様

出席者名簿

招待者

(財)南大阪地場産業振興センター 専務理事 岩田 茂様

(財)堺市中小企業振興会 常務理事 北村 虔司様

(社)堺観光コンベンション協会 事務局長 平田四十三様

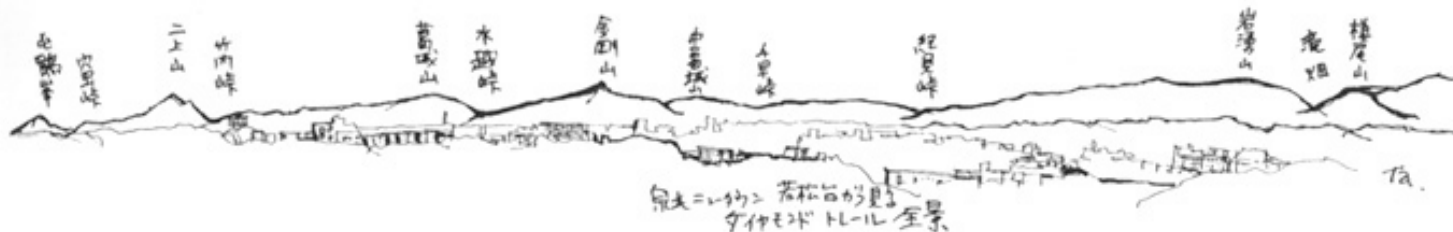
賛助会員

堺商工会議所 企画調査部 藤澤 広和様

会 員

上野あきら、岡村 筈、岡村松三、岡本安吉、垣村三平、金子誠之助、川崎 浩、北川 正、後藤英之、崎田公明、高木 外、館野 羊一、古本和宏、森 達男。

以上14名(敬称略)



新入会員の紹介

新しく正会員になられた方々をご紹介します。

1. 後藤隆平伊(ごとう りゅうへい)

- 昭和6年6月29日生まれ
- 〒558-0053 大阪市住吉区帝塚山中3-3-19
- 電話 06-678-2638
- 画家
- 同志社大学卒業、小出卓二画伯に師事
- 行動美術協会会員
- 日本美術家連盟会員
- 大阪樟蔭女子大学講師

2. 後藤 英之(ごとう えいじ)

- 昭和37年9月29日生まれ
- 〒558-0053 大阪市住吉区帝塚山中3-3-19
- 後藤英之事務所
- 電話 06-678-2711 ●FAX 06-678-2711
- 彫刻家 パブリックアート・ランドスケーププランニング
- 多摩美術大学 大学院研究生 修了
- 96年 大阪市芸術文化賞 受賞

デザイン界・芸術界でご活躍の方々の正会員への入会をお待ちしております。

会報SaDA20回記念号原稿募集のお願い

今回の会報SaDAは20回記念号の発行となります。年末か新年を迎える頃の発行かと思えます。会員の皆様に常に解放している会報SaDAに、どうぞ原稿をお寄せください。

■募集要項

1. 自由投稿……1列は900字を一つの単位として、2列なら1800字単位で投稿して下さい。カット、イラスト、写真も同封して下さい。
2. 会員近況報告……400字以内で、最近のご活躍、お仕事やご自慢、作品事例、異動、変更報告などをお寄せ下さい。全会員の方々の報告をお待ちしています。お顔のカット、顔写真もお願いします。
3. 「堺市、ここが良いとこ」、「……ここを良くしよう」、「堺市、いま生まれようとしているもの」1行26字で1800字以内。
4. 「匠の分析を試みる」……ご自分なりの解釈や意見をお寄せ下さい。対象は自由。1800字以内。
5. イラスト、カットの募集……楽しいもの9cm角以内。原稿の間にオアシスとなるようなもの。

ご協力の程、お願いします。

豆知識データ

籠野羊一

■ダイヤモンドトレールを歩測しました。……その1ダイトレを往復しました、全長45kmと言われている全尾根コースを万歩計をつけて歩測したデータです。

1. 横尾山バス停～滝畑バス停……………5.2km
 - 横尾山バス停～施福寺(山頂) 29分……1,980歩
 - 施福寺～ポテ峠 55分……………5,609歩
 - ポテ峠～滝畑バス停 30分……………計8,922歩
 - ＜2時間18分……推定5.26km＞

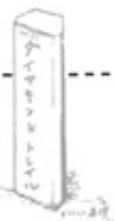
2. 滝畑バス停～岩湧山～旧国道、紀見峠……………13.42km
 - 滝畑バス停～岩湧山(山頂) 107分……………8,003歩
 - 岩湧山山頂～三合目分岐 72分……………14,363歩
 - ボ谷ノ池到着 42分……………17,005歩
 - 旧紀見峠国道に出る 40分……………計20,259歩
 - ＜5時間17分……推定13.42km＞ 累計18.68km

3. 紀見峠(旧国道)分岐～金剛山(ダイトレ葛城山へ分岐)……14.2km
 - 紀見峠～ヤリミズ林道 山の神 15分……………1,419歩
 - 山の神～西の行者 51分……………4,694歩
 - 杉尾峠到着 46分……………7,666歩
 - 杉尾峠～行者の杉 25分……………9,713歩
 - 干早峠到着 50分……………13,044歩
 - 中葛城山(百合の花) 60分……………16,801歩
 - 中葛城山～久留野峠到着 13分……………17,380歩
 - 伏見峠到着 34分……………19,656歩
 - ダイトレ葛城山への分岐 26分……………計21,794歩
 - ＜5時間40分……推定14.2km＞ 累計32.88km

4. 金剛山(ダイトレ分岐)～水越峠……………4.81km
 - 金剛山(ダイトレ分岐)～水越林道へ下山 55分……4,818歩
 - 水越峠到着 25分……………計7,748歩
 - ＜1時間20分……推定4.81km＞ 累計37.69km

■その1合計/横尾山～水越峠……………合計58,723歩

☆歩測数は登りと下山とでは、一步の長さが異なります。既に分かっている距離の所の歩測数で一步を計算してみますと、0.55mであつたり0.75mであつたりします。これを参考にしてダイトレを歩きませんか。



《編集後記》

今回も多くの人々のご厚意により投稿をいただきました。ありがとうございました。

ほんらい原稿を受領しましたら、その旨をご連絡すべきであるのご注意をいただいたり、また特集記事にと、資料を載っていますが、すべて広報委員の怠慢で、ご厚意にお答え致しておりません。載いた資料の分析と意見原稿は現在執筆中であります。次回記念号までお待ち下さい。

さて、会報SaDAは次回で20号となります。前回の18号からこの広報委員を担当させていただいており、過去のこの会報SaDAの特色も歴史も先輩のご苦労も理解せずにまいました。本来は堺デザイン協会の理念や使命を表現した編集方針であるべきなのでしょうが、まだまだ勉強中です。もう少しお許し期間をください。

言うまでもなく、堺デザイン協会は「堺市」を中心とした地域に関係ある会員により、成り立っています。「地域の文化への貢献と創作活動」が当協会の使命であると思います。そのためにこの会報SaDAの紙面を十分に活用して載せ、意見や発見、育成の努力の紹介などをして載せたいのです。

多くの意見が集められ、その時々大切な会員共通の課題が話し合われ、それならと、地域に貢献できる活動をさらに高められれば、この協会がより楽しくなります。

今回の19号は、お陰でさまざま多くの「匠」を持っておられる方々の投稿を載せました。「織物」と「刃物」は堺を思うとき、大切な「…」であります。そしてもっともっとあると思います。これは発見され尽くしているはずなのですがもっと紹介して、さらに「今、生まれようとしているもの」はもっと紹介しても良いのではないのでしょうか。次回の20号記念では、ページを増やして、会員と、この地域を愛する人々により、「生まれようとしているもの」を考えて見たいと思います。21世紀に「堺」は何を創る使命を担うのか。果たすべきもの、作るべきもの、など、予言や設計図をお寄せ下さい。 (館野 記)



会報 **SADA** 19号
平成10年9月25日

発行 堺デザイン協会
〒590-0071 堺市北向陽町1-1-7 オカムラデザインプロ内
TEL.0722-29-5011

編集 堺デザイン協会広報委員会
館野 羊一 山崎 晶